

— 知の泉 —

# Castalia

第17号  
2010.3

東京外国語大学附属図書館報 Tokyo University of Foreign Studies Library Bulletin

平成21年度  
図書館展示会  
展示資料より



## 目次

■ 館長巻頭言「ふうっと息抜き、図書館で」	2
■ 寄稿「将来の夢と香港の書店」	3
■ 寄稿「読書を楽しもう」	4
■ 附属図書館講演会報告（平成21年度） 「散文について — 読むことと書くこと」	5
■ 「こんなに便利！ 近隣図書館」	6
■ ポスター特集	9
■ 図書館展示会報告（平成21年度） 「MASSON：19世紀バルーチスタン・アフガニスタン紀行」	10
■ 図書館統計（平成21年1月～12月）	14
■ 図書館活動日誌（平成21年4月～平成22年3月）	16
■ 編集後記	16

# 「ふうっと息抜き、 図書館で」

附属図書館長 立石 博高

冒頭に掲げたタイトルは、昨年暮れに朝日新聞に連載された「ニッポン人脈記 3万人の命に」という記事からの引用です。この連載は、日本でなぜ自殺者が年間3万人にも上るのか、それを防ぐために人びとがどのような活動をおこなっているか、を扱っていました。そして、悩み疲れた人が「ふうっときて、ふうっと息が抜け、自分を解放できる場所」にするために、地域の図書館の充実に奔走する人びとの活動を紹介していました。そこには、あるアメリカの公共図書館の、自分の頭にピストルを突きつけた男の周りに本がたくさん積まれている絵に、「自殺しようと思うなら、おやめなさい。そのかわりに図書館へいらっしゃい」というタイトルのついたポスターが紹介されていました。

本学の図書館が「ふうっと息抜き」ができるような環境を十分に備えていると自負することはできませんが、この何年かにわたって、学生の皆さんが図書館を利用しやすいよう努力してきたのは事実です。土日も含めてできるだけ開館時間を増やしてきましたし、レファレンスの仕事も充実させてきました。また、昨年度からリフレッシュコーナーを設けて、長時間の図書館利用に便宜を図るようにしました。図書館講演会もこれまでの文芸作家をお招きしてのものほかに、「読書への誘い」として、豊富な学識を持つ方々に読書体験を語ってもらうことにしました。学習のための基本文献紹介

の図書館HPへの掲載も進めています。さらにこれからは、「ラーニング・コモンズ」というコンセプトのもとに、大学院生のサポートスタッフを常駐させ、学生たちの学習効果を大きく高めるようなスペースを設けようと計画しています。

こうして本学図書館は、皆さんが社会や人生を考え、さまざまに学習し、「生きる力」を育む場所となることを目指しています。どうか在学中も、そして卒業後も、本学図書館を活用していただきたいと思います。

ちなみに、最初に挙げました朝日新聞の記事(2009年12月21日付夕刊)は、朝日新聞記事データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」で読むことが出来ます。さらに引用されたアメリカの図書館についての紹介は、*Library Instruction for Librarians* (Libraries Unlimited, 1982)に掲載されており、本学所蔵ではありませんが、全国大学図書館の相互貸借制度によって閲覧することが可能です。また、この書物の増補改訂版(1989年)は、本学のすぐ近くの国際基督教大学図書館に所蔵されていて、本学図書館との学術交流協定によって、本学の学部学生・大学院生ならば借りて読むことも可能です。こうした利用案内についても気楽に図書館2階のカウンターに問い合わせてください。最後に一言、さあ、「書を持って街に出よう！」

【編集注】本文中で紹介されている「聞蔵Ⅱビジュアル」は、以下のデータベースメニューから利用できます。

<http://www.tufts.ac.jp/common/library/guide/list/online.html>



去年の春、新入生から「子供の頃、どんな職業につくのが夢でしたか？」と聞かれて、返答に窮した。そんな昔のことは覚えていない、というのが本音だが、それでは冷淡に聞こえてしまう。うまい返答の仕方がないかと思って、参考に実家の父にたずねると「戦争がなかったら、わしはアイドル歌手になっていた」という答えが返ってきた。小さい頃から歌と踊りが好きだったそうだが、残念ながらパパのルックスはキムタクよりも山拓にずっと近いので、大東亜戦争の勃発には関係なく無理だったのではないかと思う。ちなみに夫の理想は「ウルトラマン」だったそうだ。(それって職業か?)

殿方は夢があっていいですね。全然参考にならないので、仕方なく自分の記憶をたどってみると、私の夢の職は他でもない「図書館の司書」だったことを思い出した。男女雇用均等法が施行されるはるか以前のこと、女性が結婚しても続けられる仕事は限られていた。水田とみかん山が広がる私の郷里では、「小中学校の先生」か「公共施設の職員」が基本の選択肢だった。この二者択一なら、だんぜん司書がいい。「図書館に就職すれば、冷暖房完備の快適な環境で本を読み放題」と思い込み、大学に入ると公立図書館の司書資格をまず取った。しかし世間は甘くない。実習では「重い本、高い書架、走り回る子供と無茶なレファレンス要求」を満喫した。さらに資格をとっても実際の求人数は多くないという現実の前に、卒業と同時に図書館に就職するという夢は、夢のまま終わった。

ただ幸運にも、このとき教わったことは後に中国書と付き合うのに予想外に役立った。たとえば、異なる出版地の重要性である。講座の先生が例示したのは、児童文学の原書だった。アメリカで発行されたC.S.ルイスの『ライオンと魔女』は、イギリス版とは悪役の名前が違うらしい。さて中国語書籍の場合は、名前どころか内容まで、中国大陸版と香港版で違っていたりする。私が大学3年生のときに読んだ中国語の小説では、主人公の一人が終盤になって何の脈絡もなく死ぬ。「はあ？」とあっけにとられているうちに、物語は不条理なまま幕。実は香港版にはちゃんと死因の場面があって、彼は不道德な遊びの果てに亡くなっていたのだ。(当時の中国は今よりもずっと「お色気厳禁」の国だった。)なお香港版は大学図書館にあったのだが、お色気描写

の部分だけ手書きでびっしりと日本語訳が書き込まれており、先輩たちの努力と情熱に、色々な意味で目頭が熱くなったものである。

香港といえば「専門書は専門書店でまとめて買うべし」という教えも威力を発揮した。返還前の香港では、小さな個人経営の書店の店主が、自分の足で大陸を回って掘出し物を集めていることがままあった。こういう店ではクレジットカードは使えないので、現金をしつかり用意していく。いきなり「貴重な資料を見せて」と言ってもダメで、まずこれと思う専門書を片っ端からレジに積んで、少々無理でも札ビラを切ろう。領収書もらって帰ろうとするころには、店主が「お客さん、お待ちなさい。こちらの部屋へ」と声をかけてくる。そうして通された奥の部屋には、中国大陸では持ち出しに制限のある資料がところ狭しと並べられていたりした。

今は中国もずいぶんオープンになり、ネット経由で書籍の個人輸入も可能になった。でも現地では自分の足で小さな書店を訪ねてほしい。できればまとめ買いもしてみよう。壁の奥から、思わぬ情報を耳打ちされるかもしれないから。



「学生諸君、もっと本を読もう」と言うには、私は最も不適格である。なぜなら、ここ十数年読書と縁遠い生活をしているからである。「趣味は何ですか?」と聞かれれば「読書です」と答えるが、この手の会話は「お元気ですか?」「ええ、おかげさまで」と同じようなもので、「じゃあ、最近どんなのを読んでいますか?」と突っ込まれることはめったにない。(あれば、困る。「週刊文春」と「ビッグコミックスピリッツ」と答えるわけにはいかないのだ。)

しかし、決して本が嫌いなわけではない。時間がないため、「読みたい」本が読めないだけである。私が読みたい本は、残念ながら、今の仕事とは全く関係のない本である。

専門に関する論文や書物は「読まねばならぬ」ということで読んでいるのだが、「こいつ、何言ってるんだ」「当たり前のことをなんでこんなに難しく言わなきゃいけないの」と、つい研究者根性丸出しになってしまう。英語をカタカナ言葉にして振り回している文献を見ると、「オーペーカ!」(古!)&#x2D;と言いたくなる。こんな感じでなかなかページが進まない。机の上には専門書がだんだん積み上がっていく。

ものごとを批判的に見て世の一般的認識を疑うことが「研究者根性/(魂)」というならば、研究者根性が出たついでに言うと、読書の大切さが喧伝されることにも胡散臭さを感じる。第一、あまり本ばかり読むと目が悪くなるではないか。読書はいいことなのだよと、まるで普遍的真理のように言われることに違和感を覚える。いいことだから読書するのではない。読書したいから読書するのである。ここのところを強調したい。だから、

「学生諸君、読書を楽しもう」と言いたい。

そこで、まずは本屋や図書館をぶらつくことを勧める。面白そうな本があれば、手に取ってみることだ(本屋では立ち読みに注意!)。興味があれば、買ったり借りたりして読めばいい。1冊読んだら、また次の「読みたい」本に移る。このような連鎖が各自の読書体験となっていき、それが血となり肉となるのだ。

本を読む際は、自分なりに感じたり考えたりすることが大事である。それは、いくら偉い“立派”な大御所が書いたことでも、おかしければおかしいと思うことである。また、決まった枠組みで考えるのではなく、自由にそして批判的に考えながら読んでいくことである。このことは学問においても大事である。大学の先生方(…… if not all, though)が学生に期待するのもこのことである。

自分の感性を大事にしよう。しかし、感性は常に磨いておかねば錆びてくる。読書は、映画や音楽と同じように、感性を磨くものである。自分の感性だから自分で磨かねばならない。他人から磨いてもらったり、いやいや磨いたのでは、自分の感性とはならない。だからこそ、自分から読みたい本を見つけ、読書を「楽しむ」のである。

今読みたい本がなければ、無理して読書しなくてもいい。音楽でも感性は磨かれる。しかし、読みたい本を見つめる努力は常にしておいたほうがよい。感性を磨くものは多いほどよいから。

感性を磨くことで己が成長していく。なんと素晴らしいことではないか。私もこれからそうしていこう。但し、もう成長は無理なのでアンチエイジングのために……。



## 散文について 読むことと書くこと

早稲田大学教授 堀江 敏幸

散文とはなにか。散文は詩ではないという言い方はできますが、僕はもっと違う言い方があるんじゃないかとずっと考えています。

散文について考えるとき、たとえばこんな場面を思い起こします。

今年(2009年)9月4日の巨人・ヤクルト戦、3対3でむかえた延長12回に巨人の木村拓也選手が急遽、キャッチャーとして出場しました。それまで捕手をつとめていた加藤健選手が、前の回に頭部にデッドボールを受けて退場し、代わりのキャッチャーが誰もいなくなっただけです。そこでベンチにいた木村拓也に白羽の矢が立った。木村が公式戦でマスクをかぶるのは、広島時代以来じつに10年ぶり。しかし、ランナー2人を出したものの、みごと無失点に抑えたんですね。僕はその場面を観て、こういうのが散文なんだと思ったんです。つまり、木村拓也という人は現場に座ってから考えている。役割を与えられてから、じぶんに何ができるかを考えている。そういう感じがとてもよく伝わってきました。キャッチャー・ボックスに座った瞬間に出てきた言葉を拾うというか、定石にとらわれないというか、「散文とは木村拓也である」と言いたくなるような、そういう事件でした。

ところで、物理学者の中谷宇吉郎さんに「鼠の湯治」という随筆があります。それはこんな話です。北大のY教授の研究室で、温泉が怪我の治癒に効くのかどうか研究を始めた。そのための実験として鼠に傷を付け、その傷がどんなふうに治っていくのかということを調べた。すると、測定値がバラバラで、法則のようなものを見つけないことができない。いわば散文的な状況に陥ったわけです。そこで、実験を行った研究室員のO君から相談を受けた中谷さんは、外傷の自然治癒の経過は指数曲線になるはずだという予想を立て、実験で得られたデータを試行錯誤しながら眺めていた。それで分かったのは単純な事実でした。つまり、怪我が治り始めた時点を一とすれば、そこから先の治り方はきれいな



な数式になる。逆に言えば、怪我の治り方はみな違うということです。

思えばこれもまた散文の話につながります。どういふふうに書いたらいいのか。それは、数式化もできないし言葉にもできない。書き始めるということは、言葉に傷を付けるということですから、ものを書くことは、何か傷を付けて、言葉が治っていくまでの時間をじぶん一人でずっと見ていくに等しいんですね。その治るまでの時間が人それぞれ違うわけです。

さて、鼠の実験で得られた結論は「鼠は温泉が好きだ」というものでした。中谷宇吉郎のこのテキストを、どんなジャンルに分類したらいいのでしょうか。じつは、ジャンル分けはさほど重要ではありません。できてしまったテキストをどのように読むか、どのように愛していくか、そのことこそがむしろ問題なんです。

たとえば鼠の実験をした結果、どうしたらいいか分からなくなってしまった、そういう気持ちで書いていくと、あらゆるものが散文になりうるし、それが最終的に作品という形を取るに過ぎない。たとえどんなに混沌としていても、ある時間を経た後、たどりついてできてしまったものならば、それは作品として認めていいんじゃないか。いろんな傷の形があつて、治ってないままの文章があつたとしても、それは散文である。僕はそう思います。

【編集注】本稿は、平成21年12月7日(月)に本学で開催された附属図書館講演会の要旨です。



# こんなに便利！近隣図書館

## ■この本、外大で見つからないのだけど…？

そんな時、知っていましたか？近隣に本学学生が貸出利用できる図書館があるのです。  
今回は、そんな便利な本学附属図書館と連携関係にある近隣図書館をご紹介します。



## 府中市立中央図書館

府中市立中央図書館のある「ルミエール府中」という公共施設は、まだ真新しい5階建ての建物です。本学の学生は市内在学者なので、利用登録ができます。この中央図書館には自動化書庫があり、70万冊以上という市立図書館としてはとても大量の資料を収蔵できるようになっています。

- 貸出利用者数：537,501人
- 蔵書冊数：787,809冊
- 借りられる点数/期間：  
図書10冊/2週間、視聴覚資料6点/1週間

※貸出利用者数・蔵書数は中央図書館に限定したものです  
(平成20年度府中市立図書館事業概要より)



## 外大生へここがおすすめ！



学習スペース

### 1. 学習スペース

中央図書館5階にある学習スペースは、ガラス面の多い開放感のある部屋で、気持ちよく長時間過ごせそうな空間となっています。席の予約はできませんので、その場で受付をして利用することになります。府中市立図書館の資料ばかりでなく、持ち込みの本などで学習することもできます。ご自分のパソコンや電卓を使える席もあり便利です。



予約本コーナー

### 2. 予約棚

資料を予約して用意ができると、「予約本コーナー」という館内にあるガラスで仕切られた部屋に置かれます。ここで利用者自身が手に取り、貸出手続きまですることになります。これにより、他の人が予約した本でも手にとってその場で見ることができる、需要の多い図書が一目瞭然など利用者にとってさまざまなメリットがあります。

また、このコーナーの書架は“e-棚”といって普通の図書館ではなかなか見られないものです。資料に貼られたICタグと連動し、利用者カードを機械に差し込むと、自分の予約した図書のある棚に光が点灯して、場所を知らせます。e-棚は新着本コーナー、資料展示のコーナーにも採用され、OPACで検索すると、通常のカテゴリ順に並ぶ棚とは別の場所にあることがすぐ分かるようになっています。



e-棚



## 外国資料こんなにあります!!

英・中・韓国語が多いのですが、14言語の資料を収集しており、文学と日本についての案内書が充実しています。担当のスタッフからは是非、本学の留学生の方にも利用してもらいたいとのことでした。





# 国際基督教大学図書館 (ICU 図書館)

ICU 図書館は、朝日新聞社刊『大学ランキング』図書館の部で毎年高い評価を得ており、学生一人当たりの貸出冊数は約 60 冊と、全国平均約 8 冊と比較してもとても高い数値です。本学の学部学生・大学院生・常勤教職員の方は、ICU 図書館で利用登録ができますので、ぜひご利用下さい。

■登録者数(学生): 3,061 人

■蔵書冊数: 683,785 冊(洋書: 325,595 冊)

※ICU 図書館ウェブサイト「図書館統計・データ」より



## 外大生へここがおすすめ!



キャレル

### 1. のびのび快適! 長時間過ごしたい閲覧スペース

「固めの座面だから、ずっと座っていても疲れないんです」と、そんな心配りがうれしい椅子が配置された閲覧スペースは、自然光が差し込む開放的な空間です。本館二階にある雲形のキャレル(個人学習用机)は、左右・正面を無駄なく活用できる設計で、集めた本を机に置き、読みながらノートを広げるといった一連の動作も広々行うことができます。窓からの景色を勉強の合間に楽しむこともできるキャレルは外大生も利用できますから、ぜひお試しあれ。

### 2. じつは簡単! 自動化書庫(ASRS)

自動化書庫って何でしょう? 自動化書庫とは本の収納方法の一つで、本を機械化した書庫に収納し、機械を操作して出庫します。ICU 図書館ではこの自動化書庫を ASRS と呼んでいます。ICU 図書館はもともと全開架式(図書館の本をすべて自由に手に取ることができる方式)を取っており、自動化書庫を導入する際にもその方針になるべく近くなるよう工夫したそうです。だから初めての人も安心、実は簡単! です。



### ASRSの使い方



1. OPAC にて、「配架場所」に ASRS と表示されるものは ASRS に入っています。
2. OPAC 詳細表示画面の最下段に表示される【取り出す】ボタンをクリックします。



ASRS Shelf

取出した資料はオスマー図書館地階の「ASRS Shelf」で受け取ることができます。

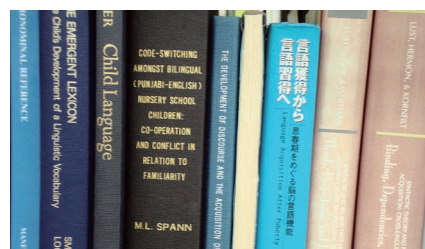
※詳しくは ASRS の利用: 国際基督教大学図書館 (<http://www-lib.icu.ac.jp/Equipment/ASRS/index.htm>) をご覧ください。



### 日英一緒に並んでいます

本学図書館では、まず言語によって本の配架場所を分けています。これは、所蔵している資料の言語の種類が多いためなのですが、ICU 図書館では、英語も日本語も一緒になって棚に並んでいます。これは、言語ではなくジャンルによって配架場所が分かれているからなのです。

同じジャンルの本を、言語に関係なくまとめて探したい人にとっては、この配架方式も便利な方法の一つです。





# 近隣図書館へのアクセス方法

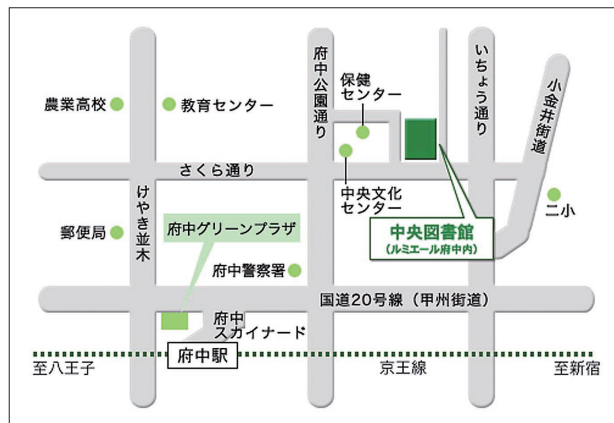


## 府中市立図書館 中央図書館

〒183-0055 府中市府中町2-24

ルミエール府中内

◆京王線府中駅から徒歩7分

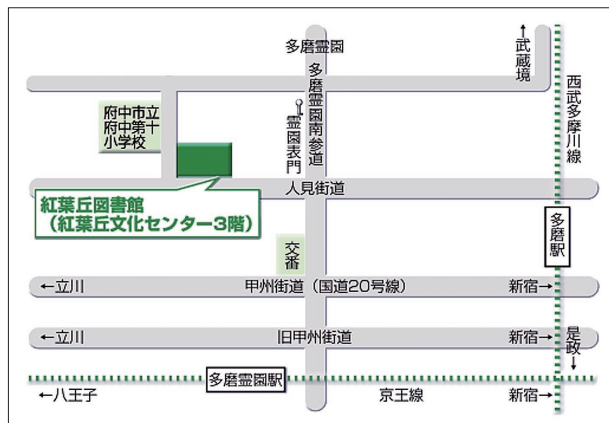


## 府中市立図書館 紅葉丘図書館

※本学が一番近い、府中市立図書館の地区館です。

〒183-0004 府中市紅葉丘2-1

◆西武多摩川線多磨駅から徒歩12分



## 国際基督教大学図書館

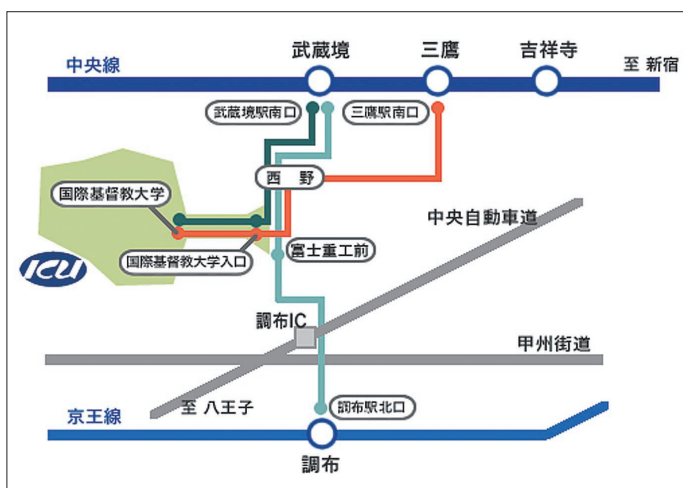
〒181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

◆JR中央線武蔵境駅南口から

- ・小田急バス「国際基督教大学」行終点下車
- ・小田急バス「狛江営業所」行、「狛江駅北口」行  
または「吉祥寺駅」行乗車「富士重工前」下車

◆京王線調布駅北口から

- ・小田急バス「武蔵境駅南口」行  
または「西野御塔坂下」経由三鷹駅「行乗車」  
「富士重工前」下車



## ★附属図書館からのお知らせ★

近隣図書館のご紹介、いかがだったでしょうか。2009年はICUとの協定を結ぶなど、さまざまな出来事がありました。ここでは、2009年附属図書館からのお知らせを一部、紹介します。

※『附属図書館からのお知らせ』は、ホームページに掲載しており、新着記事を自動で取得することができます(RSS対応)。

詳細は、ホームページをご確認ください。

### ●返却日事前通知サービスの開始

返却日の近い資料をメールでお知らせするサービスが始まりました。

配信先のメールアドレス登録は2階カウンターにて行っております(平日9-17時)。

### ●リフレッシュコーナーをリニューアル!

2階のリフレッシュコーナーで、飲み物が飲めるようになりました。

※その他の館内では、飲食はご遠慮ください。





## ポスター特集

附属図書館で作成した、展示や講演会のためのポスターを集めました。今年はどんな展示や講演会が開催されるのか、附属図書館や研究講義棟の掲示板にご注目ください。

知識が広がると

見える世界が **変** わってくる!?

附属図書館では、本年秋、学生のみならず、地域のみなさんにも、附属図書館を開放します。  
本に出会えるきっかけとして、是非、ご参加ください。

例年好評を博しております学外の有識者の方をお招きした、講演会も開催いたします。

今年の秋は、講演会で知的な時間をお過ごしください。

附属図書館講演会・読書への誘い  
詳しくは、Web へ!

おも読書、きょうけいは読書会

東京外国語大学附属図書館講演会・読書への誘い  
携帯専用サイトまでアクセス!


1

[illegible]

4

# MASSON

「マッソン」と名を変えた、ある男の旅行記



## 19世紀 バルーチスタン・ アフガニスタン紀行

1827年、帝国主義を迎えようとしていたイギリス。  
そのベンガル第一師団を脱走したイギリス軍人ジェームズ・ルイスは、  
アメリカ人旅行家「チャールズ・マッソン」へと名を変えて、西アジアへ旅立った。

現在もなお、第一級の史料とうたわれる  
マッソンの旅行記に残されたスケッチをたどり、  
当時のバルーチスタン、アフガニスタン世界をめぐる。

2009  
11/18～12/18  
東京外国語大学  
附属図書館  
2F展示コーナー

- 1：講演会予告（タイトル：『読書への誘い』）
- 2：講演会（タイトル：『語学と文学の間～私の読書履歴』・講演者：沓掛 良彦）
- 3：講演会（タイトル：『散文について一読むことと書くこと』・講演者：堀江 敏幸）
- 4：展示会（タイトル：『Masson：19世紀パルーチスタン・アフガニスタン紀行』）

# MASSON: 19世紀バルーチスタン・アフガニスタン紀行

本学附属図書館

昨年(2009年)11月18日から12月18日まで、本学附属図書館2Fギャラリーにて、平成21年度図書館展示会「MASSON: 19世紀バルーチスタン・アフガニスタン紀行」を開催しました。

ここでは、会場で配布されたパンフレットの中から、マッソンの旅行記に残されたスケッチを本学八尾師 誠教授の解説とともにたどり、19世紀のバルーチスタン・アフガニスタン世界をめぐります。

## ●マッソンの旅行記

Masson, Charles, 1800-1853. *Narrative of various journeys in Balochistan, Afghanistan, the Panjab, & Kalât, during a residence in those countries : to which is added an account of the insurrection at Kalat, and a memoir on Eastern Balochistan.* London : Richard Bentley , 1844 (請求記号HUB/K/589350/1～4)



Vol.1 口絵

### ジャラーラーバード(Jalālābād جلال آباد)

ジャラーラーバードは、アフガニスタン東部の都市である。ペシャーワールから東へ約127km、カーボルから西へ約162kmのカーボル河岸に位置する。ジャラーラーバード周辺の地域は、かつてサカ族およびクシャーナ朝下でガンダーラの王国(紀元前6世紀-11世紀)を形成し、文化的・宗教的繁栄を誇った。また7世紀初頭には、玄奘三蔵がこの地について記録している。



Vol.2 口絵

### カラート(Qalāt قلات)

「目の前に広々と広がる平原や丘、その向こうにくっきりと見えるChehel Tanの頂、それらを眺めていると、小説の場面や未来への喜びが心に浮かんだ。こうしたことが、初めてカラートを見たという満足感をますます強めるのだった」

(マッソン旅行記より抜粋)

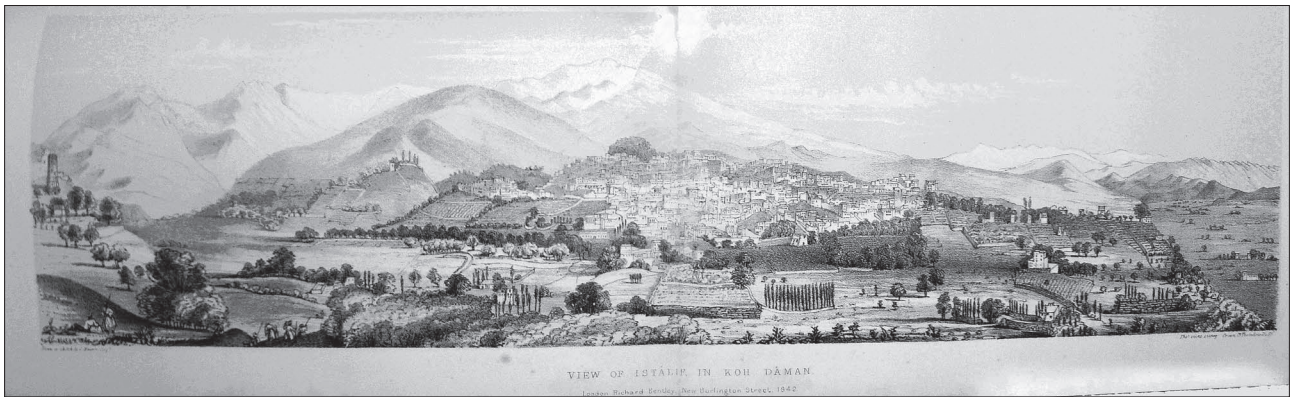


Vol.3 口絵

### バーミヤーン(Bāmiyān باميان)

バーミヤーン川近辺の石窟郡、東と西とにそれぞれ38mと55mの大仏立像があったがターリバーンの爆破により現在は破壊されている。この地には1835年初冬にこの地を訪れたマッソンの書き残した落書きがある。「こんなに高い洞窟にまで探検に来る物好きがもしあるとしても、チャールズ・マッソンが先にここに来たりしことを知るであろう」





Vol.3 折り込図

### イスターリフ (Istälif استالف)

「私たちは、丸い石ころがしきつめられた谷底を、白い泡をたてて小川が勢いよく流れていく深い溪谷とは逆側に腰をおろし、イスターリフの町のすばらしい眺めを楽しんだ。溪谷側は果樹園やぶどう園が生い茂り、それはまるで谷から町まですっぽりと包み込んでいるようだ。家々は溪谷の上り道にそって建ち並び、互いに上へ上へと屹立していく。(中略) イスターリフは想像しうる限りで、もっとも美しい場所のひとつだ。自然の美との融合が、これほど我々に完璧だと思わせるのか。町の家々は粗野だが、その美しさは傷つくどころか、むしろ増していく。風景全体との見事な調和!この国の景色は雄大だ。

この国にはこんなことわざがある―「イスターリフを見たことがない人は、何も見ていないのも同然だ」

私たちがそれ以上言うのは差し控えるけれど、イスターリフを見たことがある人間は、それに勝るような土地をいくつも見ることはないだろうということだけは信じてもいい。そして、同じくらいすばらしい土地も」(マッソン旅行記より抜粋)

## ●バローチェスターン(バルーチェスターン)とは

バローチェスターン(イランではバルーチェスターン)とは、ペルシア語で“バローチ(イランではバルーチ)人の土地”を意味する。つまり、現在このように呼ばれる地方には主にバローチ(バルーチ)人が住んでいる。

信頼に足る人口統計があるわけではないので、推定の域を出ないが、パキスタンには、その一州を構成するバローチェスターン州を中心に約350万人、アフガニスタンのスィースターン・レギスターン地方に約20万人、イランには、その一州を構成するスィースターン・バルーチェスターン州を中心に約150万人、他に中央アジアのメルヴ地方に1.3万人、更には数世代前から続いている出稼ぎの結果、湾岸諸国やオマーンなどにいるバローチ人も相当数に上る。

言語学上、インド＝ヨーロッパ語族のイラン語派に属するバローチ語を用いる彼らは、カスピ海沿岸地域から現在のバローチェスターンに移動してきたのではないかと考えられているが、定かではない。ただ、その過程でも、また現在の地に定着した後も、在来の多くの異質な集団と混淆・同化して現在に至っていると見て

ほぼ間違いないようだ。

宗教的にはバローチ人の大半はスンニー派イスラーム教のハナフィー法学派を奉じているが、パキスタンのマクラーン地方には聖地メッカに向かつての礼拝(ナマーズ)を否定し、集団による神の賛美(ズィクル)を行うことからズィクル派と呼ばれる一種の異端集団(彼ら自身は紛れもないイスラーム教徒であることを確信している)も存在している。

しかし、彼らバローチ人として、バローチェスターンで圧倒的多数を占めているわけではなく、他にドラヴィダ系の言語を母語とするブラーフイ人(カラートを中心に約80万人)、パシュトゥーン語を用いるパシュトゥーン人(クエッタ周辺地域)、アフガニスタン中央部から移住してきたハザーラ人など、実際の人口構成は多様である。従って、バローチ人とは、最も広い意味ではバローチェスターンに住む人々で、パシュトゥーン人以外の全てを指すこともある。或いは、もう少し限定的に、メドやダルザダ、ローリーといったいわゆる社会の底辺層の人々を除くバローチェスターンの住民という緩やか

な意味で用いられることもある。

バローチェスターンは、域内の気候条件は多様であるとはいえ、他の中東や西アジア諸地域と同様に、乾燥地帯に属しており、総じて降雨量は少ないこともあって、住民の生業としては、天水依存農業に加えて、地下用水路（ガナート、カーリーズ）を利用した灌漑農業が一般に行われ、ナツメヤシの他に、小麦・稲・もちなどの穀類、葡萄・メロン・スイカなどを栽培している。また、ヤギの飼育を中心とする牧畜も重要な産業であり、季節移動を特徴とする遊動（ノマディズム）も随所で見られる。

複数の主権国家のそれぞれにあつては少数派として位置づけられるバローチ人は、いわゆる民族問題の当事者でもある。パキスタンにおいては、インドからの分離独立後も暫くは自治が認められていたが、パキスタン

への完全統合（1970年）後は、反政府活動が活発化し、当時のブットー政権に対する武装蜂起を引き起こすまでに至った。

イランでも、ドースト・モハンマドがレザー・シャーに帰順する1928年まではテヘラン政府から政治的自立状態を保ち続けており、その後も、度々中央政府との緊張関係は続いた。特に、イスラーム革命後の憲法草案審議の過程で、唯一のスニー派ウラマーでバローチ人の代表として参加していたモッラーザーデは、シーア派12イマーム派の国教規定とペルシア語の公用語化に反対し、革命政権と対立した。

いずれの地域も、目下のところ、表面的には事態の沈静化を見ている。

（大学院総合国際学研究院教授 八尾師 誠）

## ■チャールズ・マッソン(1800—1853)とは

チャールズ・マッソンは19世紀のイギリス人探検家・考古学者である。

1800年にロンドンでジェームズ・ルイスとして生まれ、イギリス東インド会社のベンガル砲兵隊に入隊したが1827年に軍から脱走し、アメリカ人旅行家チャールズ・マッソンと名乗るようになる。アフガニスタンにて数々の遺跡調査を行ったが、後にイギリス軍秘密情報局の諜報員となる。

1842年に主著 *Narrative of Various Journeys in Balochistan, Afghanistan and the Punjab*（請求記号 HUB/K/589350/1～4）を出版した。

### 参考文献

・稲葉穰(2003). 紹介 Gordon Whitteridge 著 Charles Masson of Afghanistan 東洋史研究会【編】東洋史研究 62(2), 350-354. 政経書院, 2003

## ●19世紀当時のバローチェスターン社会・政治情勢について

### イギリス植民地主義政策の展開とバローチェスターン

18世紀が終焉を迎え、19世紀の幕開けを見ようとするその時、奇しくもバローチェスターン周辺地域を巡る国際関係は俄かに慌しくなり、新たな激動の時代を迎えることとなった。その直接のきっかけとなったのは、1798年、ナポレオン麾下のフランス軍によるエジプト侵攻であった。ナポレオンの狙いは、イギリスのインド支配に楔を打ち込もうとすることであり、そのための彼の構想は、「エジプト遠征の後には、ダニューヴ河から南ロシアに入り、黒海からボルガ河に至り、同河を下って、アストラハンに出て、更にカスピ海を渡ってイラン領のアスタラーバード湾（現在のゴルガン方面）に上陸、イラン東部を抜けてヘラート、カンダハールを経てスィンド渓谷に侵攻する」という誠に壮大なものであった。おりしも、当時、デリーをも脅かす勢いのアフガニス

タンの国王ザマーン・シャーが、イギリスのインド支配に激しく抵抗していたマールワール地方のティブウ・スルターンと同盟を結び、フランス軍に支援を求めている。ナポレオンはこれに答えてエジプトから両者に向けて支援の小部隊を派遣したのである。

こうして、それまではイラン高原地域にはさしたる関心を示さなかったイギリスが、インドに攻勢をかけるフランスへの対抗策として、俄かにガージャール朝イランへの接近を試みるようになっていく。かくして、ガージャール朝イランとの間、植民地インドの西方に近接する位置にあるバローチェスターンもイギリスの直接的関心の中に取り込まれていったのである。

当時のバローチェスターンの中心地カラートを拠点としたミール・ナーセル・ハーンの支配が、彼の死に



よって急速に衰えていった19世紀初頭に、バローチェスターンに入った最初のイギリス人のひとり、ヘンリー・ポッティンジャー (Sir Henry Pottinger) は、この地がサルダール (部族長) の割拠状態であることを報告している。つまり、政治的には極めて不安定な状態にあった訳だが、正にこの頃から、次第にバローチェスターンへのイギリスの浸透が顕著となっていく。そして、それを一気に加速させた事件が第一次イギリス・アフガン戦争 (1838～42年) であった。

親露的姿勢をとるカーブルのドゥッラーニー朝バーラクザイ系国王、ドースト・モハンマドを退位させ、親英派の前国王シャー・ショジャールの復位を画策するイギリスが、カーブル制圧を目して起したのが第一次イギリス・アフガン戦争であった。イギリスは、カンダハールへの自軍の安全な進軍を確保するためには、その途中に当たるバローチェスターン地方を自らの管理下に置く必要性に迫られた。そのために、1839年にはカラートのミール・メフラーブ・ハーンのもとにアレキサンダー・バーンズ卿 (Sir Alexander Burnes) が派遣され、カラートの主権と支配領域の保証および、街道の安全確保と糧食の提供に関する協定が成立した。

この時を以って、バローチェスターン地方の大部分はイギリスの影響下 (事実上は、管理下) に置かれることとなり、こうした状態は1947年にパキスタンの一州として独立するまで続く。

一方、19世紀後半にイギリスは本国と植民地インド

を直接結ぶ電信線敷設という大事業に乗り出す。それは、1857年に突発したインド大反乱が大きな脅威となって押し掛かり、こうした不測の事態に迅速に対応するためには、本国と植民地の緊密なる連絡体制の構築が急務となっていたからであった。この敷設事業完遂にとって、大きな障碍のひとつとなったのが、サルダールが割拠し、治安状況が芳しくないバローチェスターン地方であった。

その主たる原因を当該地方に対する管理主権が明確となっていないことに見たイギリスは、インド＝ヨーロッパ電信会社の総支配人であった軍人、F.J. ゴールドシュミットをこの地に派遣し、ガージャール王朝政府とイギリス領インド帝国との勢力圏の画定を行った (ゴールドシュミット裁定: 1871年、1872年)。これが現在のイラン・イスラーム共和国とパキスタン共和国の国境となる。

1893年には、英領インド帝国の外相モーティマー・デュランドが、アフガニスタン国王アブドル・ラフマーンとの間で条約に調印し、同王国と英領インド帝国との境界線を設定した。これがインドからの分離独立後、パキスタンに継承されることとなった。

こうして、主としてバローチ人が居住するバローチェスターンはイギリスの植民地主義政策の展開の結果として、現在は、三つの主権国家に分けられた状態で存在することを余儀なくされているのである。

(大学院総合国際学研究院教授 八尾師 誠)

## ■その時、日本は

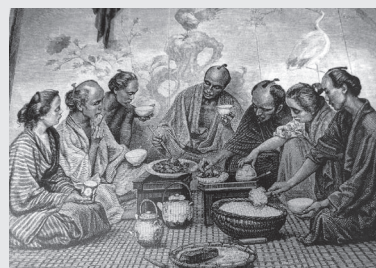
「ジェームズ・ルイス」がイギリスで産声を上げた時、日本では「鎖国」という言葉が使われ始めたところだった。時は1801年、11代将軍・家斉の時代である。19世紀に入ると、日本では外国船の出没が活発化してきた。そして、マッソンが死去した1853 (嘉永6) 年にペリー来航、1854 (安政1) 年に日米和親条約が締結された。同年、欧米諸国と開国の諸条約を締結し、日本は開国と相成る。こうしてみると、マッソンが生きた時代は日本にとって運命的な時代だといえる。彼が活躍したころ、江戸幕府では鎖国体制がゆるぎ、開国に至り、さらに幕末という激動の時代を迎えていたのだ。

### 参考文献

- ・名島太郎. 解説日本史年表. 東京, 名島太郎, 2006.
- ・飯田鼎. 英国外交官の見た幕末日本. 吉川弘文館, 1995.
- ・楠木誠一郎. 日本史・世界史同時代比較年表. 朝日新聞社, 2005.5
- ・樺山 紘一. 世界の旅行記 101 History handbook. 新書館, 1999.
- ・デジタル大辞泉, ジャパンナレッジ・日本大百科全書, ジャパンナレッジ

展示図版より「食事」▶

(須藤功編. 【図集】幕末・明治の生活風景: 外国人のみたニッポン. 東方総合研究所, 1995. より抜粋)

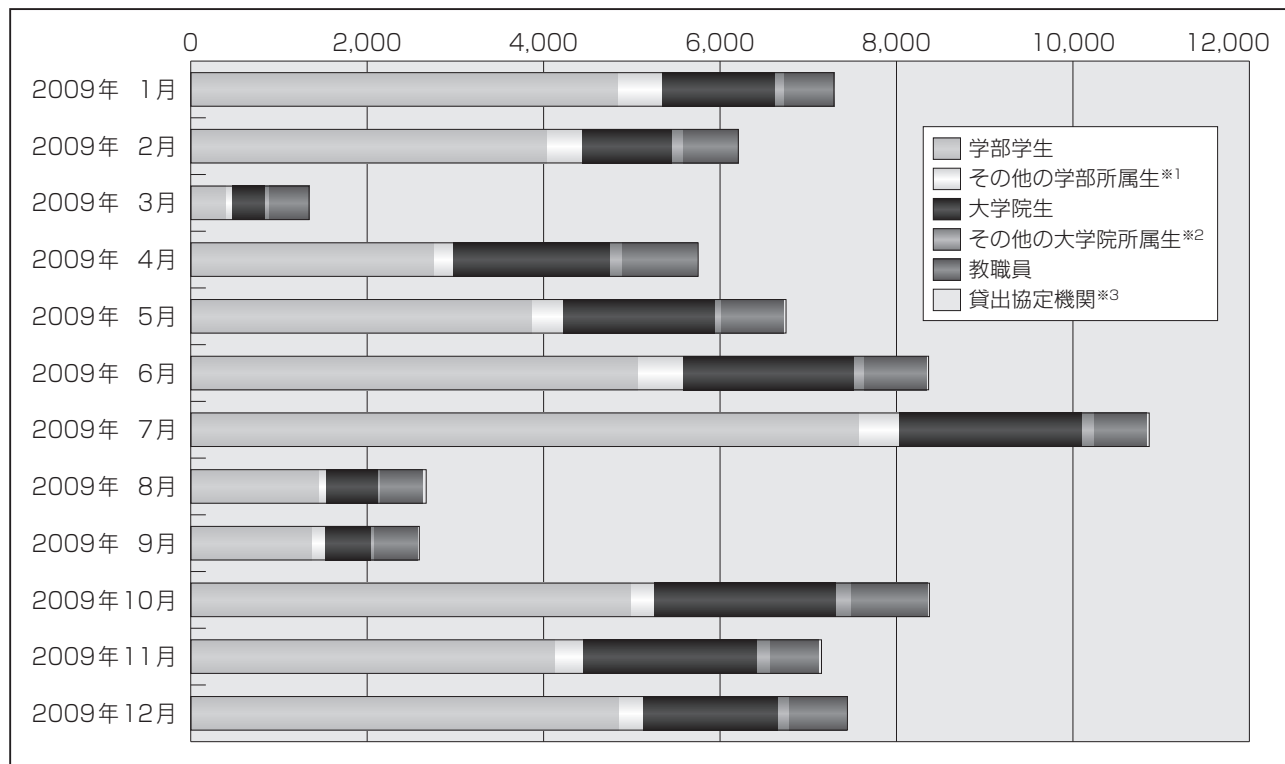


本学図書館展示会のパンフレットが以下のURLでご覧になれます。どうぞご参照下さい。

<http://www.tufs.ac.jp/library/guide/shokai/tenji10.pdf>

# 図書館統計

## 貸出冊数統計



### 貸出冊数統計

[期間:2009年1月～2009年12月]

	2009年1月	2009年2月	2009年3月	2009年4月	2009年5月	2009年6月
学 部 学 生	4,834	4,037	393	2,751	3,865	5,069
その他の学部所属生*1	503	389	66	217	346	501
大 学 院 生	1,278	1,020	379	1,781	1,722	1,940
その他の大学院所属生*2	106	132	40	135	72	111
教 職 員	573	632	466	864	715	722
貸出協定機関*3	—	—	—	7	31	24
合 計	7,294	6,210	1,344	5,755	6,751	8,367

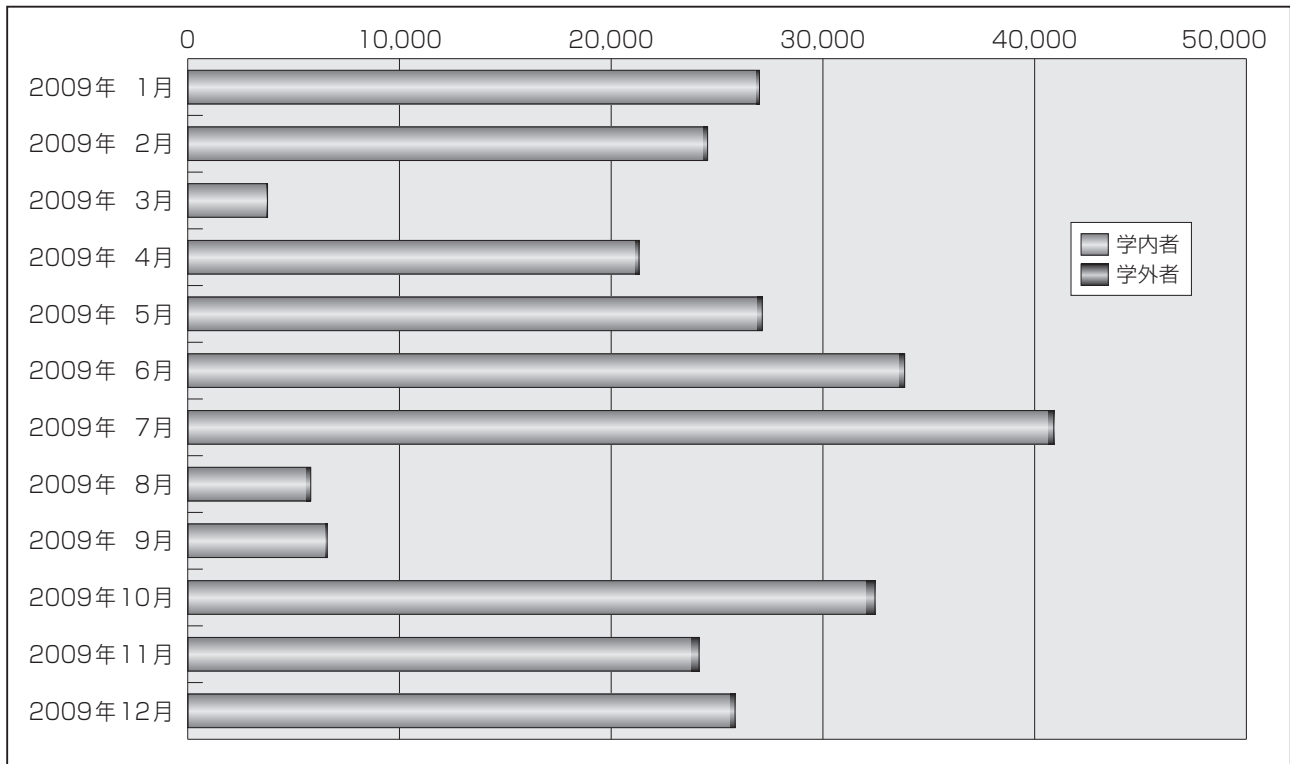
	2009年7月	2009年8月	2009年9月	2009年10月	2009年11月	2009年12月	総 計
学 部 学 生	7,575	1,453	1,366	4,982	4,128	4,844	45,297
その他の学部所属生*1	445	80	146	268	316	279	3,556
大 学 院 生	2,082	585	521	2,059	1,970	1,528	16,865
その他の大学院所属生*2	126	26	39	165	143	126	1,221
教 職 員	611	488	495	880	559	652	7,657
貸出協定機関*3	29	40	27	22	37	18	235
合 計	10,868	2,672	2,594	8,376	7,153	7,447	74,831

※1 学部研究生や科目等履修生などを含む。 ※3 貸出協定を締結している機関を示す(2010年1月現在、国際基督教大学のみ)。

※2 大学院研究生や大学院特別聴講生を含む。



## 月別入館者数



### 月別入館者数

[期間:2009年1月～2009年12月]

	2009年1月	2009年2月	2009年3月	2009年4月	2009年5月	2009年6月
学内者	26,823	24,336	3,665	21,122	26,878	33,580
学外者	193	229	116	203	268	293
合計	27,016	24,565	3,781	21,325	27,146	33,873

	2009年7月	2009年8月	2009年9月	2009年10月	2009年11月	2009年12月	総計
学内者	40,607	5,580	6,452	32,019	23,743	25,593	243,575
学外者	307	242	142	451	418	268	2,937
合計	40,914	5,822	6,594	32,470	24,161	25,861	246,512

## 東京外国語大学学術成果コレクション登録件数・利用状況

東京外国語大学学術成果コレクション (Prometheus-Academic Collections) とは、東京外国語大学の研究・教育成果および史資料を収集し、広く一般へ公開することを目的とした機関リポジトリです。インターネットを介して、学術論文や史資料本文を閲覧することができます。(2008年3月正式公開)

### コレクション別のアイテム・アクセス・ダウンロード数

[期間:2009年1月～12月 ※アイテム数:2008年12月31日現在]

コレクション	アイテム数	アクセス数	DL数※1
研究成果※2	1,797	79,613	93,396
博士論文	69	9,549	22,547
C-DATS※3	28,627	86,958	15,436
附属図書館※4	2,935	16,077	937
合計	33,428	192,197	132,316

※1 ダウンロード数

※2 本学紀要論文を収録(「アジア・アフリカ言語文化研究所」、「留学生日本語教育センター」発行分も含む)

※3 21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」により収集された史資料および刊行物を収録

※4 図書館報および「南アジア史資料デジタル・アーカイブズ(SARDA)」等を収録

★詳細は、<http://repository.tufs.ac.jp/doc/index.html> をご覧ください。

## 図書館活動日誌 (平成21年4月～平成22年3月)

- 4月 1日 …… ICU(国際基督教大学)図書館との相互貸出開始  
4月 8日 …… 入学式(館報「カスターリア」等配布)  
4月13日 …… 図書館オリエンテーション(全5回 ～23日)  
4月14日 …… 図書館ガイダンス(全4回 ～24日)  
4月28日 …… 平成21年度情報リテラシー科目附属図書館担当分講義「附属図書館利用案内」  
(全4回 4月30日と計2日間)  
4月30日 …… 国立大学図書館協会東京地区協会総会 4名参加(於 東京医科歯科大学)  
5月13日 …… 返却日事前通知サービスの開始について  
6月10日 …… 平成21年度第1回学術情報室(図書館担当)会議  
6月16日 …… 平成21年度情報リテラシー科目附属図書館担当分「情報検索演習」(全16回 6月18日との計2日間)  
6月22日 …… 情報検索ガイダンス(全6回 ～30日)  
6月19日 …… 第56回国立大学図書館協会総会2名参加(於 新潟市)  
7月 1日 …… リクエストガイダンス(全20回 ～1月末日)  
7月 8日 …… 平成21年度第1回選書委員会  
7月10日 …… 中学生職場体験受け入れ(2名)  
7月25日 …… オープンキャンパス図書館見学  
9月 3日 …… 東京西地区大学図書館協議会・夏季実務研修会 3名参加(於 一橋大学 ～9月4日)  
10月 7日 …… グルジア国トビリシ・アジア・アフリカ大学長来訪  
10月 8日 …… OPACに洋雑誌の登録を開始  
10月 8日 …… 図書館オリエンテーション(10月9日と計2日間)  
10月14日 …… 情報検索ガイダンス(全8回 ～10月23日)  
10月19日 …… タイ・プリンソブソンクラ大学副学長一行来訪  
10月19日 …… 平成21年度附属図書館講演会<読書への誘い>第1回(杵掛良彦先生『語学と文学の間:私の読書遍歴』)  
10月21日 …… 平成21年度第2回選書委員会  
11月17日 …… 東京西地区大学図書館協議会実務担当者会議 2名参加  
11月18日 …… 平成21年度附属図書館展示会(『Masson: 19世紀バルーチスタン・アフガニスタン紀行』)(～12月18日)  
11月21日 …… オープンキャンパス図書館見学  
12月 3日 …… デジタルリポジトリ連合国際会議2009 4名参加(於 東京工業大学 ～4日)  
12月 7日 …… 平成21年度附属図書館講演会(堀江敏幸氏『散文について一読むことと書くこと』)  
12月 9日 …… 平成21年度第3回選書委員会  
2月 1日 …… 平成21年度附属図書館講演会<読書への誘い>第2回(永井進先生『環境と経済』)  
2月10日 …… 平成21年度第4回選書委員会  
3月25日 …… 平成21年度第2回学術情報室(図書館担当)会議

## 編 集 後 記

- 2009年の学部学生一人当たり貸出冊数は約14冊と、全国平均をやや上回りました。今年は国民読書年でもありますし、先輩方、あるいは去年の自分に負けないくらい、たくさんの本を読んでください。皆様のご利用、お待ちしております。(木村)
- 本学では言語だけでなく実に幅広い主題が研究されています。そんなニーズに応えるため図書館も日々努力しています。今回ご紹介した近隣図書館との提携もその一つ。皆様の豊かな研究の一助になればと願っています。(村上)
- 最近、本も図書館の建物も形のあるものであり、時間の経過や利用で次第に劣化し、いずれ使えなくなってしまうということを実感するようになりました。当たり前と思って利用してきた図書館ですが、少しでも寿命を延ばせるよう、大切にしようと思います。(吉田)
- 書籍の電子化が急速に進みつつある反面、場としての図書館が見直されてきています。世知辛い世の中にあって、皆さんが、対価無しで知的生産物を得られる先端的な設備を備えた学習・研究の場を目指していければと思います。(大澤)

### Castalia: 東京外国語大学附属図書館報 第17号

2010年3月31日発行

発 行: 東京外国語大学附属図書館 〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

電 話: 042-330-5193 ホームページ: <http://www.tufs.ac.jp/common/library/index-j.html>

印 刷: 三鈴印刷株式会社